

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第29号
2012年10月12日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DDC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

動労千葉の10・1ストライキに続き 全職場で外注化・非正規化と闘おう

11・4労働者集会に大結集を

10月1日、JR東日本における電車の検査修繕・構内運転業務の外注化とそれにもなう労働者の強制出向に反対し、動労千葉は5日間(2波計60時間)のストライキで徹底的に闘い、団結と闘いの意思を完全に守り抜いて外注化粉碎の新たな闘いに突入しました。

この闘いをあらゆる職場に拡大し、11・4労働者集会の大結集に結びつけよう。

10月1日の朝、外注先である千葉鉄道サービス(CTS)に強制出向になった幕張支部の組合員は職場に乗り込み、デタラメな外注化と偽装請負を徹底的に追及しました。

幕張車両センターでは9月下旬から連日の時限ストを貫徹し、JRは出向の説明もまとも

は職場での闘いを通して「絶対にJRに戻させる」という確信を深めています。

1日の12時から第一波ストに突入。3時からDC会館でスト突入集会が開催されました。

田中康宏委員長は「出向に出された組合員、JRに残った組合員を分断し、労働組合をつぶし、労働者を非正規につき落とす。こんなことは絶対に許さずわれわれは闘い続ける。外注業務をJRに戻させる。今日のストは新しい闘いの第一歩だ」と

力強く訴えました。

職場から新たな闘いを開始した

外注化を強行したことによってガタガタになったのは会社の側です。



他支部の組合員らに送り出され、職場に乗り込む動労千葉幕張支部の組合員(幕張車両センターに隣接する幕張本郷駅前)

も立ち上がり、朝まで仕事ができなかったということが起こっています。

外注化の破たんが日を追うごとに明らかになっていきます。CTSには業務に精通している管理者は一人もいない。

11月4日に開催する全国労働者総決起集会を、外注化・非正規化と闘う新たな労働運動の開始を宣言する場としよう。この闘いの中に全国運動の発展もあり、仲間と一緒に東京・日比谷野音に集まってください。

全国運動に新たな呼びかけ人

鐘を鳴らすのは動労千葉

鬼頭宏一 (島根大学名誉教授)

先進資本主義社会は、1%の富裕化と99%の窮乏化の様相を呈している。階級対立の先鋭化である。

20代の若者は、「就活」自由の機会を与えられても雇い口が見つけられず、競争のスタートラインにも立つことができない。

30代の労働者でも労働力の生産・再生産の費用に事欠き、恋人がいなくても結婚ができない。

40代・50代のサラリーマンは、中流階層から削(そ)ぎ落とされ没落する者が多い。60代以上の老人は、生活は豊かだと



言われているが、かつかつの年金生活者と資産のある老人との格差は大きい。

Brics (ブラジル、ロシア、インド、中国など)の新興国は、2008年の金融危機以後も経済を成長させて来た。

しかし、ヨーロッパやアメリカの金融恐慌の危機は新興国の経済成長を鈍化させ、それがまた日本を含む世界経済の混迷を深めている。

た世界恐慌は、ニューディール政策により一時的に(1934~36年)回復するが、1937年に再び恐慌に陥り、資本主義世界の構造的矛盾は、ファシズムと第二次世界大戦に繰り延べられ、「解決」された。

現在進行中の金融恐慌の危機は、戦争によって「解決」されはならない。グローバルな金融危機の戦争による「解決」は人類の存亡にかかわる。

現在の金融危機は、新自由主義(サッチャー「1979年」、レーガン「1980年」、中曽根「1982年」)思想の所産である。

新自由主義とたたかう労働組合の全国ネットワークをつくろう！ 国鉄1047名解雇撤回！ 外注化阻止・非正規職撤廃！ 反原発・反失業をたたかう国際統一行動を！

11・4全国労働者総決起集会

日時 2012年11月4日(日) 正午
場所 東京・日比谷野外音楽堂

動労千葉が「闘う労働運動の復権」と「労働者国際連帯の発展」の鐘を鳴らしている。蛇足ながら、「世界労働者党の建設」をつけ加えよう。「座して倒れる」よりも「立ち上がって闘おう！」。労働者の解放は、人類総体の解放なのだから！

全国の闘う労働組合・労働者のみなさん。日々の奮闘に心より敬意を表しますとともに、国鉄1047名解雇撤回の闘いへの長年にわたる多大なご支援にあためて御礼を申し上げます。

動労千葉の鉄建公団(現・鉄運機構)訴訟で6月29日、東京地裁民事第11部(白石哲裁判長)において、「国鉄分割・民営化に反対する組合員を不当に差別する目的で選定基準が策定され、採用候補者名簿に載せなかったのは不法行為」として採用されたはず」とする判決が出ました。

6・29判決は、1047名解雇について、不採用基準(名簿不記載基準)そのものが不法行為であり不当労働行為であることを画期的判決でした。「一旦全員解雇―選別新規採用」という枠組みによって「JRの法的責任なし」とした国鉄改革法を打ち破る展望を開きませんでした。しかし、「解雇は正当」という断じて許さない反動判決でした。

裁判所をして、このような矛盾した判決を出さざるをえないところまで追い込みました。あためて、国鉄分割・民営化に決着をつけるために高裁12民事部で解雇撤回・JR復帰の判決をかちとるために奮闘する時だと思えます。そもそも1047名の不採用が不当労働行為



であり、不法行為であることは当初から明らかです。ついに25年の闘いでそれを裁判所に認めさせました。この四半世紀、国鉄分割・民営化方式の解雇や非正規雇用の嵐が吹き荒れ、千数百万人の労働者が非正規雇用に突き落とされました。労働者の権利は奪われ、労働組合運動は後退してきました。いま公務員労働者360万人の首切りも、この国鉄方式のエスカレーターとして強行されています。

他方で、判決は大きな地平をかちとっています。これまで裁判では、北海道・九州の被解雇者については、採用されていなくても、採用されなかったとしても、採用されたはず」とする判決が出ました。

6・29判決は、1047名解雇について、不採用基準(名簿不記載基準)そのものが不法行為であり不当労働行為であることを画期的判決でした。「一旦全員解雇―選別新規採用」という枠組みによって「JRの法的責任なし」とした国鉄改革法を打ち破る展望を開きませんでした。しかし、「解雇は正当」という断じて許さない反動判決でした。

動労千葉・鉄建公団訴訟で〈解雇撤回・JR復帰〉の高裁判決を求める署名運動

す。動労千葉は、JRによる鉄道業務の全面外注化阻止の闘いと結合して、1047名解雇撤回まで闘い抜く決意です。つきましては、「不当労働行為の認定」「解雇撤回」「JR復帰」へ向け、高裁12民事部への取り組みとして団体署名・個人署名を下記

の通り取り組むこととしました。各団体・労働組合におかれまして、多数の署名を集めていただきますようお願いいたします。【第1次締め切りは2012年12月末です】

- (呼びかけ) 足立実(東京東部労働組合元委員長) 伊藤晃(日本近代史研究者) 入江史郎(スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合委員長) 李東碩(広島大学大学院総合科学研究科准教授) 宇都宮理(愛媛県職員労働組委員長) 大野義文(元安芸労働基準監督署長) 大口昭彦(弁護士) 荻野富士夫(小樽医科大学教授) 鎌倉孝夫(経済学者・埼玉大学名誉教授) 北原鉦治(三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長) 鬼頭宏一(島根大学名誉教授) 金元重(韓国労働運動史研究者) 清井礼司(弁護士) 高英男(全日本建設運輸連帯労働関西地区生コン支部副委員長) 齋藤貴男(ジャーナリスト) 崎浜秀俊(元沖縄県高教組副委員長) 佐藤幸子(子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人) 椎名千恵子(子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人) 下山房雄(九州大学名誉教授・JR東日本株主会前会長) 白井佳夫(映画評論家) 新藤宗幸(千葉大学名誉教授) 杉本一郎(自交総連北海道地連書記長) 鈴木達夫(弁護士・法政大学弾圧裁判弁護団長) 清野和彦(元福島県教職員組委員長) 芹澤壽良(高知短期大学名誉教授) 手嶋浩一(元国労九州本部書記長) 高橋浩(東京一般労働組合東京音楽大学分会分会長)

高山克己(元国労新潟地方本部副委員長・元新潟県労働組合評議会政治局長) 高山俊吉(弁護士・憲法と人権の日弁連をめぐす会代表) 田中学(東京大学名誉教授) 富崎正人(弁護士) 中江昌夫(元国鉄動力車労働組副委員長) 中西五洲(元全日自委員長) 中村吉政(全国金属機械労働組合合同副委員長) 西田節(元総評オルグ・東部一般統一労働組合委員長) 西村正治(弁護士) 根津公子(東京「君が代」不起立被処分者) 葉山岳夫(弁護士・動労千葉顧問弁護団長) 花輪不二男(世田谷地区労働組合協議会顧問) 藤田正人(弁護士) 伏見 忠(東京「日の丸・君が代」被処分者) 堀川忠(自交総連SK労組委員長) 前嶋登(富士地区労働組合協議会議長・元全日建中央副執行委員長) 三留理男(写真家) 宮城盛光(沖縄県北中城村議・元全軍労働港支部) 安田浩一(ジャーナリスト) 山村ふさ(元日教組書記次長) 山本弘行(動労千葉を支援する会事務局長) 矢山有作(元衆議院議員) 全金本山労働組合 全日本建設運輸連帯労働関西地区生コン支部 婦人民主クラブ全国協議会

- (賛同) 有賀信男(弁護士) 川村理(弁護士) 黒田節子 小関傳六(弁護士) 嶋田久夫(弁護士) 清水雅彦(日本体育大学准教授・憲法学) 高嶋伸欣(琉球大学名誉教授) 内藤隆(弁護士) 永島靖久(弁護士) 山崎吉男(弁護士) 横田厚(元国労釧路闘争団員) 東京清掃労働組合有明工場支部 東京二十三区清掃一部事務組合労働組合足立支部 (2012年10月9日現在)

全国運動・神奈川が2周年集会 “怒りこそ抵抗のエネルギー”

国鉄闘争全国運動・神奈川集会在10月5日、105人の参加で成功しました。全国運動・神奈川結成2周年総会としても位置づけられた集会の成功は青年労働者の決意とまとめに示されました。青年労働者は、自分の職場の状況を語りつつ「怒りのエネルギーこそが抵抗のエネルギーであり、これが新しいものをつくる。神奈川の青年を組織していく」と決意表明しました。

全国運動・神奈川の呼びかけ人でもある伊藤晃さんは、次のようなまとめを述べました。「課題は職場に組織、拠点をつくることだ。職場で何かをやりたい、何をやりたいのか。その討論が重要であり、その意見が集約されていく時に拠点ができていく」

集会に向けて、鎌倉車両センター・国府津車両センターなどのJR職場、駅、官舎に「外注化阻止ニュース」を連日配布しました。JR横浜支社でも、平成採採をはじめ多くの労働者が出向拒否の意思表示をしました。会員が自らの



闘いの中で外注化阻止決戦の大きな意義をつかみながら集会を組織してきました。参加者数も昨年より一回り増え、職場・地域での闘い、実践が着実に前進していることを示しました。青年労働者が初めて司会を担当し、最後の青年労働者の決意表明と、集会の軸に青年が座ったことも成功の核心でした。職場・地域からの報告では各全国運動、支援する会、合同労働、婦人民主クラブ全国協議会などの発言が相次ぎ、参加者が心をひとつにして、決意が横溢しました。この日の明けまでストライキを貫徹した動労千葉からは川崎執行委員が駆けつけてくださり、外注化阻止ニュースの配布が大きな力になっていることを紹介し、今回のストが現場からあふれる怒りで創造的に打ち抜かれたことを感動的に報告しました。闘う国労闘争団の成田昭雄さんも、あためて国鉄分割・民営化への怒りと国労組合員資格裁判を闘う決意を表明しました。集会参加者への自信と確信を与えたのが、鎌倉孝夫さんの「新自由主義と抗して」と題する講演でした。新自由主義攻撃に対して「抵抗の根拠と創造の根拠は同一」「私たちの労働こそが社会をつくっている。この労働をモノにして解体することに抵抗すること。創造しようとする社会は、労働者が主体となることだ。労働者は負けるはずがない。必ず勝つ」と講演を締めくくりました。11・4全国労働者集会の大結集へ、ともに闘いましょう。